

今年もインフルエンザワクチンの季節になりました。

2015.10.06

8月からの手足口病やヘルパンギーナの流行は、まだ続いております。手足口病の一昨年の流行は12月まで続きましたので、これからも警戒が必要です。

10月になって、雪虫が飛んでいたというお話も聞かれるようになりました。

10月といえば、インフルエンザワクチンの始まりです。8月に慶応大学からインフルエンザワクチンの効果に関する興味深い論文が出されました。

2013年から2014年の間のインフルエンザを解析したのですが、6か月から11か月までと、13歳から15歳まではインフルエンザワクチンの効果が認められなかったが、それ以外の年齢層では効果が認められたというものです。

論文はインターネットで読めます。毎日新聞のニュースサイトには日本語の解説がありますので、皆さんどのように感じるか読んでくださいね。(原著は英語です)

この年度のインフルエンザワクチン、特にA型に関しては、大変よく効いた印象を持っています。同じ時期のインフルエンザワクチンの当院での有効率を計算してみたところ年齢別の詳しい結果は解りませんが、A型は有効率40%でした。残念ながらB型には有効性を認められませんでした。慶応大学の論文では効果がないといわれた6か月から11か月のお子さんも例数は少ないですが、当院では効果があるという結果でした。どのような時期にどのような検査キットを使うかによって結果も変わってくるのでしょうか。ワクチンをして少しでも重症になることが防げればと思っています。

今年度のワクチンから有効率が低いとされるB型を2種類にしたワクチンが使われています。それに伴い、接種料金も上がっているところがほとんどだと思います。

来年度には鼻に噴霧するインフルエンザワクチンの使用ができるように準備が進んでいるとのこと。今後の動向にも期待してください。